

「第5回広瀬霞自然観察会」を開催します

ー広瀬霞自然再生事業のモニタリングー

松山市森松地区において、広瀬霞の湿地再生事業が平成20年3月に完成し、4年が経過しました。池（湿地）の周りには植物も回復し、魚類・底生動物等の生物も数多く帰って来ています。また、その反面、オオカワヂシャ、ブルーギル、オオクチバス、ウシガエルなどの特定外来種も確認されるとともに、ツルヨシが水面に繁茂、水質・流入ゴミなどの新たな課題も出てきました。

これらの状況を確認するため「地元関係者」、「重信川の自然をはぐくむ会」、「重信川エコリーダー」等を対象に第5回広瀬霞自然観察会を行います。今回の観察会は、植物等の観察を行うとともに、適正な管理に向けて、外来種の調査（ブラックバス、ブルーギル）を行う予定です。

※団体等については別紙ー2参照

●日時

平成24年 6月 6日（水）9時～2時間程度（小雨決行）

●場所

広瀬霞（別紙ー1参照）

●講師

松山東雲短期大学 松井 宏光 教授

愛媛大学大学院理工学研究科 三宅 洋 講師

この自然観察会は、これまでに各方面から出された意見や提案を基に整備してきた広瀬霞が平成20年3月に完成後、毎年開催されており、再生された動植物を確認し、新たに課題となっている外来種対策や水面を覆うツルヨシの対応・流入ゴミ対応について、現地で関係者が確認・検討・対応を行うものです。

平成24年5月31日

※本施策は、四国広域地方計画「NO.1人と文化をはぐくむ産学官連携プロジェクト」の取り組みに関連します。

問 い 合 せ 先

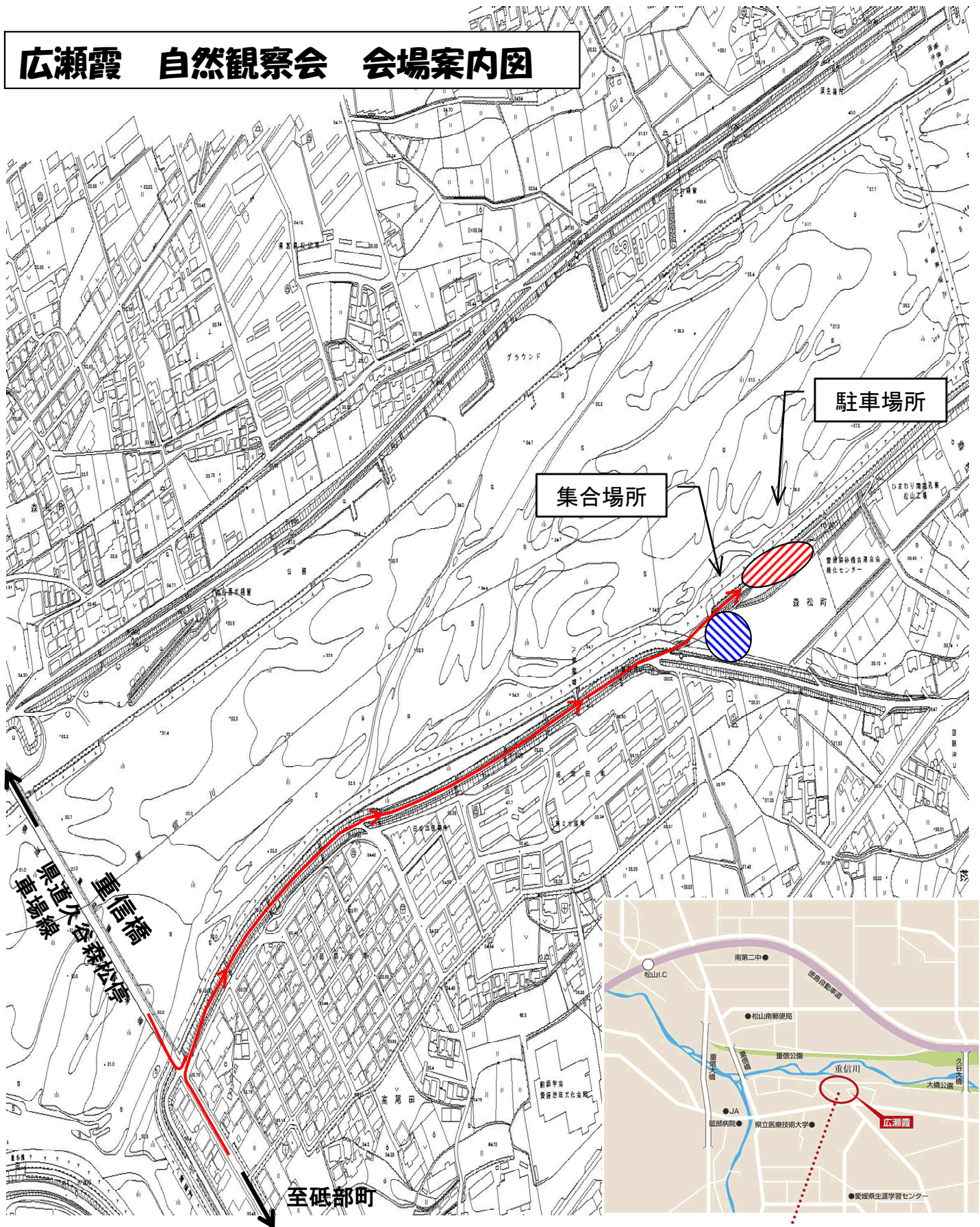
国土交通省 四国地方整備局

松山河川国道事務所 TEL 089-972-0034

河川副所長 関谷 浩二 (内線204)

調査第一課長 ○岩本 康宏 (内線351)

広瀬霞 自然観察会 会場案内図



自然観察会現地

◆重信川の自然をはぐくむ会

メンバー：大学（愛媛大学、松山東雲短期大学）、NPO等住民団体、国、自治体（県、流城市町）、学生など。約1900名

重信川の自然を取り戻そうと、NPOなどの活動団体や地域の大学、行政がひとつになって平成15年1月に設立（年1回の総会、年数回のフォーラムによる意見交換、清掃活動や、川に親しむイベントなど、民・学・官の垣根を越えた取り組みを協働で行っている。

参照HP <http://www.soil.cce.ehime-u.ac.jp/shigenobu/>

◆重信川エコリーダー

メンバー：愛媛大学に学ぶ大学生が中心、約60名

愛媛大学農学部、工学部、教育学部、重信川研究グループの主催で「重信川講座」を開催（平成14年12月）。その「重信川講座」に参加した学生達の意識の高まりから、学部・大学を越えた大学生グループ「重信川エコリーダー」が平成15年3月に結成。

「重信川のいきいきネットワーク計画（案）」策定への参画や、環境教育やモニタリング・水生生物調査・川に親しむイベント・清掃活動などへの参加を通じて、大人と子どもの架け橋となり、重信川の良好な川づくりに貢献している。

参照HP <http://sigenoburivereleader.web.fc2.com/index.html>

◆地元関係者

広瀬霞近隣にある砥部団地を中心に、松山市大橋地区、中野地区の方々

広瀬霞自然再生事業

広瀬霞は、かつては湿地的環境にあり、周辺は樹林に覆われていました。しかし、近年霞堤内は盛り土により湿地環境が喪失し、セイタカアワダチソウなどの外来植物が繁茂していました。また水質の悪化、ゴミの増加により、かつての自然豊かな面影は見られなくなっていました。

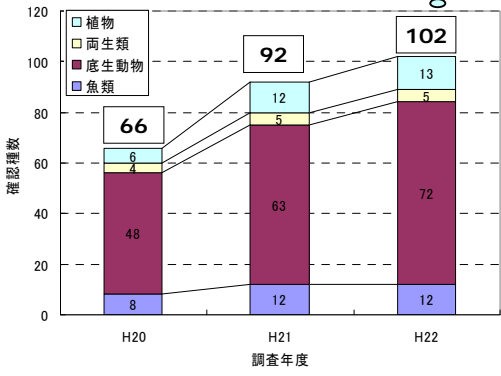
そこで、失われた湿地環境の再生と治水機能の保全を図ることを目的とし、広瀬霞の湿地再生事業を実施しました(H20. 3完成)。



完成後4年が経過し、湿地内の植生も回復。かなりの生物戻ってきましたが、新たな問題（流入ゴミ、外来種、ツルヨシの繁茂）も発生しています。



生物の生息種数は年々増加



調査項目 (Survey Item)	重要種 (Important Species)	特定外来生物等 (Specified Alien Organisms, etc.)
魚類 (Fish)	1種 メダカ (1 species Medaka)	1種 オオクチバス、ブルーギル (1 species Largehead bass, Bluegill)
底生動物 (Benthic animals)	1種 ミナミヌマエビ (1 species Southern scud)	1種 国外移動種: フロリダマミズヨコエビ (1 species Alien species: Florida water penny)
両生類 (Amphibians)	1種 イモリ (1 species Hellgrammite)	1種 (ウシガエル: 冬の底生動物調査で確認) (1 species Frog: Confirmed in winter benthic animal survey)
水生植物 (Aquatic plants)	0種 (-)	3種 要注意外来生物: オランダガラン(クレソン)、ホテイアオイ、キシュウスズメノヒエ (3 species Alien species: Dutch water hyacinth (Cresson), Water hyacinth, Japanese water hyacinth)

重要種 (Important species)

外来種 (Alien species)



刈草、野菜くず、ビニル袋等によりすぐに目詰まり (Clogging quickly due to cut grass, vegetable scraps, plastic bags, etc.)



地域住民の方々が中心となり清掃等の維持管理を実施していますが、流入水路からのゴミ（刈草や野菜くず、藻類、ビニル袋、ペットボトル等）が多く対応に苦慮しています。

第5回広瀬霞自然観察会

H24.6.6 9:00～2時間程度

会 次 第 (案)

- ・ 開 会
- ・ 開会あいさつ
- ・ 帰ってきた動植物、外来生物のはなし
- ・ 植物等の観察会
- ・ 水質パックテスト
- ・ 特定外来種調査 (ブラックバス、ブルーギル)
- ・ 除草・清掃
- ・ 記念撮影
- ・ 閉会あいさつ
- ・ 閉 会

◆昨年度実施状況写真



植物等の観察会 (松井教授)



除草 (ツルヨシの除去)